

「徳成随風」(17)

2013.12.02

太平洋戦争開戦日

桑高同窓会長 西羽 晃

1941 (昭和 16) 年 12 月 8 日早朝 (日本時間)、日本軍はハワイの真珠湾にある米軍海軍基地を奇襲攻撃し、太平洋戦争が始まった。当時の私は神戸で幼稚園に通っていたが、晴天の寒い朝だったと記憶している。何が何だか知らないが、大人たちが興奮していた。一緒に通園する友達は半ズボン姿であった。長ズボンをはいていた私は「寒くないのか」と尋ねたら、友達は「お父さんは兵隊として満州に行っている。お父さんのことを思うと、寒いと言っておれない」と返事した。私の父は兵隊に行っていないのを、私は恥ずかしく思った。

この真珠湾攻撃に桑名中学出身の川橋善作が参加していた。彼は長島の農家出身で、桑名中学 4 年生 (1936 年) の時に海軍兵学校を受験した。身体検査合格者に対して、3 日間の学科試験 (英語、数学、物理、漢文) が行われた。三重県下で約 800 人が受験し、合格は 2 人だけという厳しい試験で、残念ながら彼は不合格だった。

学費のかからない師範学校か、陸軍士官学校か、海軍兵学校を目指したが、翌年の海軍兵学校にも不合格だった。しかし、その年から始められた海軍甲種飛行予科練習生に合格した。三重県下では 50 人受験し、5 人の合格だった。津中学の 2 人、宇治山田中学の 2 人と彼だった。

彼は 1938 年 3 月に桑名中学を卒業して、横須賀海軍航空隊に入隊して、猛訓練を受けた。真珠湾の模型を使つての訓練もあった。日本海軍の艦船は 1941 年 11 月 19 日に呉軍港 (広島県) を出発し、ヒトカップ (単冠) 湾に集結し、12 月 3 日真珠湾北方洋上に達して、8 日 (現地では 7 日) 早朝に真珠湾を総攻撃

した。彼も参戦したが、その手記を彼は『創立九十周年記念誌』（三重県立桑名高等学校 1998年）に次のように書いている。

「やがて雲が切れて、雲間に白い波が海岸で砕けるのが見えた。オアフ島だ。高度を四千、四千五百、五千米まで上げる。金曜日に入港した笈の戦艦アリゾナと同型艦も見える。二番機（九七式艦攻）の私は、ダイヤモンド岬を目標に高度三千米から三百米まで下げ、カルフォニア型戦艦を目がけて魚雷投下二発、水深十二米の海面した九米を魚雷が走る。魚雷よりも航空機の方が勿論早いので、発射した魚雷は後方に見える。戦艦甲板で水兵が歯ブラシを使っているの見える。反撃はない。やがて百三十米位の水柱が上がる。あちこちで水柱が上がる。攻撃成功。（中略）真珠湾攻撃が終了して十二月二十四日帰国」（原文は縦書き）。

翌年5月に母校の桑名中学で後輩たちに体験談を話した。その後のミッドウェイ海戦で辛うじて一命を取りとめ、戦後は桑名で社会人として活躍した。